



TOP MESSAGE

企業文化の醸成を加速させ、 企業価値の向上を 推し進めてまいります。

「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと
当社グループのステークホルダーのすべての方に満足いただく「And Game」の実現のため、
従業員各自が自立的にお客様に満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成を加速させ、
企業価値の向上を推し進めてまいります。

2022年12月 FDK株式会社 代表取締役社長 **長野 良**

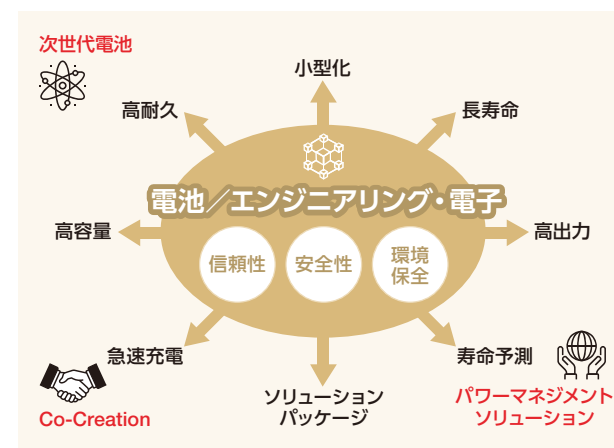
当社は、2019年10月にFDKグループのさらなる経営体質強化と企業価値の向上を図るため、FDKグループのVisionのブラッシュアップを行なうとともに、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えすべく、10年後のあるべき姿として「10年の計」と、このあるべき姿の実現に向けた最初の3年間(2020年～2022年度)の中期事業計画「R1」を策定しております。

中期事業計画「R1」の2年目にあたる2021年度は新型コロナウイルス(COVID-19)に端を発した社会構造の変化、電子部品や樹脂部品の調達難や原材料価格の高騰、コンテナ不足や港湾混雑など物流混乱の常態化、ウクライナ情勢による国際エネルギー価格の高騰、そしてサステナビリティへの取り組みがより一層拡大した1年でした。

FDKグループのあるべき姿の実現に向けて

当社は、10年の計で当社グループのあるべき姿として掲げた当社が持つ既存のオフリングの信頼性、安全性、環境保全といった特性に新たに様々な機能・特性を追加し、より広範な活用の実現と多様化するお客様のご要望に応え、環境へ配慮した製品の開発に取り組んでおります。

既存の電池製品では性能改良のため、材料開発、分析評価、CAE技術による要素技術開発に取り組まれました。ニッケル水素電池では、車載アクセサリ市場・電源バックアップ市場向けの高容量・高耐久・長寿命電池の開発、交通インフラ市場向けバッテリーシステムの量産化、リチウム電池では国内外で需要が高



まっているスマートメータ市場に対応すべくエネルギー密度向上の取り組み、またアルカリ電池においては、放電特性・耐漏液性の改良を進めました。

次世代電池ではニッケル水素電池とアルカリ電池の保有技術を応用し、正極に水酸化ニッケル、負極に亜鉛を用いたニッケル亜鉛電池、正極に空気中の酸素、負極に水素吸蔵合金を用いた水素/空気二次電池の開発を推し進めました。ニッケル亜鉛電池はサンプル出荷と量産化に向けた準備を進めており、水素/空気二次電池は定置型電源用として環境委託事業の中で実証模擬実験を行ない、更なるコストダウンや性能向上に取り組んでいます。また、SMD対応小型全固体電池SoLiCell[®]については、より広いアプリケーションに対

応するため、厳しい環境下での耐久性の改善に取り組んでいます。

次世代技術開発については当社が有する電気エネルギーの供給・貯蔵・制御技術を応用した、全種類の蓄電デバイスを対象としたパワーマネジメント応用事業・製品の研究・開発を行っています。2021年度には当社が保有するセルバランス特許を利用したバッテリーマネジメントシステムを搭載した電池モジュールの試作・開発やバッテリーモジュールのスマート化への要素技術探索を推し進めました。

FDKグループの取り組み： CSRマネジメントからサステナビリティ活動へ

当社グループでは「FDKグループCSR基本方針」を制定し、その実践にあたって重点的に取り組むCSR基本方針にもとづく7つの重点課題を定めています。これらの課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進しています。取り組みの推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、当社グループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および富士通グループの理念である「Fujitsu Way」の浸透、定着を図るとともに、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の取り組み状況の定期的なレビューを行っています。CSR基本方針にもとづく7つの重点課題である、「持続可能な社会の実現と発展に貢献する」「地球環境保全への対応」「多様性の受容」「地球と社会に貢献する人材の育成」「ステークホルダーとの対話と協力」「コンプライア

スの徹底」「コーポレート・ガバナンスの強化」に関する責任ある取り組みを進め、社会課題の解決に貢献する「本業を通じたCSR」を実践し、当社のVisionの実現に努めてまいりました。

2022年1月にはこれまでのCSR活動をサステナビリティ活動へと発展、進化させるため「サステナブル推進準備委員会」を立ち上げ、企業が取り組むべき社会課題に対して、社会要請の視点における重要性和、企業活動の視点における重要性的の双方の視点で評価することで、当社グループが中長期的に取り組むべきマテリアリティの特定に着手し、2022年3月には「1. 安心安全な電気エネルギーの提供」「2. 地球環境との共生」「3. 多様な人材の活躍推進」「4. コーポレート・ガバナンスの持続的強化」「5. 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献」の5つを当社グループのマテリアリティとして特定いたしました。また、2022年4月には正式に「サステナブル推進委員会」を設立させるとともに、特定した当社グループのマテリアリティの実現に向けてサステナビリティ活動がスタートしました。2022年度以降は本委員会での活動を通じて、今まで以上にサステナビリティ・SDGsへの貢献、社会課題の解決に繋がる取り組みを推し進め、企業価値向上に繋げてまいります。

本レポートを通じてFDKグループのCSR活動についてのご理解を賜れば幸いです。FDKグループのCSR活動の一層の推進のため、ステークホルダーの皆様から忌憚のないご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。